



# 利根中央病院だより

## 第46号 2018年 新年号

# きらめき



発行責任者 利根中央病院 院長  
 編集責任者 利根中央病院 事務長  
 〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1  
 TEL: 0278-22-4321 (代表)  
 FAX: 0278-22-4393  
 URL: <http://www.tonehoken.or.jp/>

## 年頭挨拶

皆様、新年あけましておめでとうございます。  
 昨年は国内の陸上界においては男子100mで日本人初の9秒台が記録されるという快挙がありましたが、一方で近隣国でミサイルを数発撃ちあげるといふ暴挙があり、良いことも不安なこともあった年でした。

当院では初期研修医が6名誕生したという嬉ばしいことがありましたが、皮膚科常勤医がいなくなるということもありました。経営的にも打撃が強く、

院長 大塚 隆幸



各方面で御心配をおかけしましたが、「ピンチをチャンスに」の言葉通り、見直しと改革を重ねて明るい兆しが見えてきているところです。

今年は成年です。「犬も歩けば棒に当たる」といふ諺には、積極的に行動を起こせば思わぬ幸運をつかむ、という意味もあります。今年一年、皆様が幸運をつかまれますようお祈り申し上げます。

## 成年の年男・年女 からご挨拶

腎臓内科医長 岡部 智史



あけましておめでとうございます。新年を迎えまして、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。私は今年3回目の年男となりました。節目の年であり、今まで以上に日常診療もプライベートも充実した生活を目指していこうと思います。

看護師 七五三木明美



いぬ(戌)は真面目で勤勉、縁起が良いとされています。また年男、年女は年神様のご加護を多く受けることができると言われています。特に良いことがあるといいですね。私は「アルプスの少女……」のヨーゼフのように1年を過ごしたいです。

臨床検査技師 小林 義男



1976年入職以来、利根保健生協の一員として、また臨床検査技師として、患者様始め地域住民の命と健康を守る活動に関わってきました。

5回目の成年(定年)を迎え、その任務は一区切りです。今後は生協組織部の一員として組合員と力を合せ「地域丸ごと健康づくり」に尽力する決意です。

診療情報管理士 石関 菜月



明けましておめでとうございます。入職して9ヶ月が経ち、去年の自分を振り返ると全く運動をしなかったという印象がとても強く、最近では寒さのせいか体を動かす機会がより減っているように感じます。今年、たくさん体を動かして健康的な1年にしたいと思います。

# 回復期リハビリテーション病棟の体制強化



6 B病棟師長 小野里千春

当院の回復期リハビリテーション病棟は、新病院移転と共に開設し、今年10月に入院料1を取得しました。主な要件として、在宅復帰率7割以上、新規入院患者の重症率3割以上、看護必要度A項目1点以上の患者が0.5割以上、重症患者の退院時日常生活機能評価4点以上改善が3割以上とあります。当病棟の目的は、日常生活の再構築であり、多職種で関わりながら、できるだけ早期に、可能な限り自立した日常生活へと身体活動性を高めていくようリハビリを進めていきます。月に1度ご家族も交えた面談を行っておりますが、そこでは病状等の現状やリハビリの目標設定および進行状況を説明し、患者様、ご家族の思いを語る機会にしています。今後の希望を叶えるために、どう援助していくのがよいか

検討の場でもあります。

機能障害を有する人が日々のリハビリ、ケアを通し、回復していく過程がみられることはスタッフのやりがいにもつながっています。今後も患者様を第一に考え援助していきたいと思えます。





## 健診センター着任医師よりご挨拶



健診センター いのう 伊能 そうえつ 崇税

前任地の千葉県北総地域の基幹病院では、消化管診療や健診業務に25年間従事していました。御縁があり、10月から利根中央病院の健診センターに勤務しています。利根沼田地域には、SLみなかみの撮影で何度か訪れたことがあります。利根川の下流で遠くに筑波山を望む平野の自宅から利根川上流の河岸段丘への単身赴任で自然環境の変化に戸惑うこともあります。地域に根ざした利根中央病院の

理念には感銘しています。現センター長の安藤先生や健診センターを築いた長坂先生のご指導のもと、スタッフともども利根沼田地域の皆さまに安心して精度の高い健診医療を提供できるように励みたいと考えています。



## 実践型臨床実習“闘魂外来”を開催

NHK『ドクターG』に出演されている徳田安春先生を招いて、身体診察のワークショップと、実際の患者様に対して医学生が外来診療の一連の流れを全て行う実践型臨床実習を行いました。

学生からは「大学病院では絶対にできない実習で、本当に良い経験になった」「普段の知識を実践する難しさを感じた」との感想が寄せられました。



## 災害訓練実施

11月11日（土）に総勢約180名の参加者で「片品方面の局地的な地震」という災害想定で院内災害訓練を実施しました。

訓練では、傷病者・職員やストレッチャーなどが行き交い、それぞれの職員が一生懸命傷病者の対応にあたりました。



## きらめき トピックス

### 第5回リレー・フォー・ライフジャパン2017ぐんまに参加

10月7～8日に行われたリレー・フォー・ライフぐんまへ総勢77名で参加しました。24時間リレーウォークではがん患者さんからのメッセージ「ゆっくりでいいだんべえ」の横断幕のたすきを繋いで歩き、がん患者さんや職員が作成したルミナリエの提供、院内で集めたカンパに加えて当日ハブラシ販売による売上金を寄付しました。

参加者それぞれががんについて考える大切な1日になりました。



### 高校生看護サークル活動

12月16日、ちょっと早いクリスマスでしたが、高校生看護サークルのメンバーが“サンタのお姉さん”となって、小児科入院中の子ども達を訪問しました。

手作りのカードを貰い笑顔になっていく患児の顔を見て、看護師になろうという決意をさらに強くしたようでした。

